（県政モニタートーク結果概要）

対話テーマ：これから期待される県立病院
日時：令和２年２月 16 日（日）　10：00～11：45
参加者数：県政モニター　６名（欠席４名）、県（病院事業庁等）　６名

＜いただいたご意見＞
～　担うべき役割等について　～

- 赤字とは言え、厳しい外部環境の中で、健闘していただいていると感じているが、個人的に、特に少子化に危機感を感じている。子どもを産み育てやすい環境（婦人科での不妊治療や産科のある病院との連携など）を整えることや子どもを育てられない親と子どもが欲しい方とをつなぐための取組など、病院としてバックアップする取組を行って欲しい。
- 若年層の自死を防ぐための、医療機関だからこそできる相談機能などもより担って欲しい。
- 新型コロナや原発、地震等の不測の事態への対応、日常では救急への対応などのキーワードはネットワークである。地域の医療機関との提携・相互連携をより強化すべき。
- チーム医療体制を強化し、より一層県民に寄り添った病院となって欲しい。
- ダビンチの導入メリットなどを県民にしっかり伝えて欲しい。よりよい治療を選択するために必要。健康教室などの県民に発信できる取組を充実してはどうか。
- 最先端の医療を県民が経済的な格差なく公平に受けられる体制を維持して欲しい。
- ＩＲの関係で、今後ギャンブル依存症患者が増加すると思われるので、予測的な対応が必要ではないか。
- びわ湖あさがおネットも県全体で活用されていない。宝の持ちぐされにならないよう活用すべき。
- 県内医療の最後の砦として県民に不安を感じさせない病院でいて欲しい。

～　経営関係　～

- 最新の機器を導入するなど投資を行う際には、数字の分析をし、冷静なコスト意識をもつべき。特に県はメンテナンスコストを考慮しない。また、例えば紹介率の向上に資する要因は、医師なのか、実績なのか、人気なのかなど最新のデータを分析すべき。
- 滋賀大学にはデータサイエンス学部があるので、データ分析で連携してはどうか。
- 高校生の看護師志望率が高いと聞く。看護師確保のため、保育施設などを充実させることが必要だと思う。
- 患者動線を把握し改善につなげるため、アクセスに関する統計がいるのではないか。運賃の設定（県立病院利用者の割引）等について、検討してもよいのではないか。
- クラウドファンディングやネーミングライツなど、企業や県民から協力を得るための取組を進めていくべきではないか。

＜県側から＞

- データで説明・説得ができるよう一層努めていきたい。
- 広報については、昨年度から特に重点を置いており、オープンホスピタルや健康教室など取組を進めており、必要な情報をお届けできるよう努めたい。
- ギャンブル依存症については、これからの課題として検討をしていく必要があると考える。
- チーム医療、働き方改革については、医療スタッフの増員や補助職員の採用を進めている。また、院内保育所など女性が働きやすい環境整備も一定行っている。病院として取り組める部分はこれからも取り組んでいきたい。
- 少子化対策をどこまで県立病院が担うかは、なかなか難しい問題。現在でもＮＩＣＵ後方支援などは取り組んでいる。
- 緊急時対応については、災害拠点病院になっていないなどできることとできないことがある中、我々が担える機能を考慮し、他病院と役割分担しながら行っている。今後どのような機能を担っていくのか、ネットワークをどう生かすのか考えていきたい。
- クラウドファンディングは、検討する必要があると考えている。より多くの皆さんに協力しようと思っていただけるような取組にする必要がある。
- ネーミングライツは医療法上の制限があるため自由にはできないが、直接医療にかかわる部分以外で一部広告事業を活用した取組を始めている。少しずつ広げていければと考えている。

【会場の様子】